

夏休みの体験学習

ふだん関わりのない大人と交わることで、生徒たちは想像以上に何かを感じ、刺激を受け、大きく成長します。

今回は夏休みだからこそできる、学校以外の場で学ぶ様々な体験学習の事例を紹介。

いずれも工夫、仕掛けをこらすことで「ただの体験」で終わらせることなく、「体験を貴重な経験」にしたものばかり。

これらの事例を夏休みの実践の参考にしてください。

取材・文 / いのうえりえ

鳥取・県立倉吉総合産業高校

長期就業体験で勤労観を養う。

アルバイトも就業体験に

長期間経験するからこそ芽生える 勤労観、地域産業への思い

鳥取県教育委員会では、長期休業期間を利用し、高校生にアルバイトを紹介する「アルバイト就業事業」を03年から実施。アルバイトも就業体験の一つとして位置付け、参加生徒には終了後、「就業日誌」を提出させている。倉吉総合産業高校でも経済的事情があり、学業や部活動に支障がないことを条件に、この制度の活用を認めている。特に就業体験は、長期間であればあるほど、生徒が感じるものの度合いが違ってくる。そういう意味では今後、アルバイトを体験材料として考慮する方向性も考えられる。

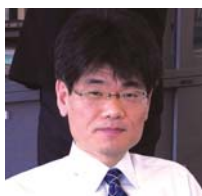
ちなみに、同校商業学科ビジネス科では、勤労観、職業観をしっかりと養いたいと考え、1学年3学期に3日間のインターンシップを行った上で、2学年の7月と12月の各5日間、「デュアルシステム」という長期就業体験を行っている。「実際、挨拶やマナーの大切さだけではなく、業務が効率的に行われているかどうか、社会で失敗は許されるのか、会社は利益を出すためにどう

いう工夫をしているか、お客さんのことをどう考えているかなどを生徒は真剣に考えます。長く職場に居ることで、「歩踏み込んだところで『働く』をとらえるようです」と進路指導主事藤本朗先生。商業学科は事務職を希望する生徒が多いが、その適性の有無を見極める機会にもなっているそうだ。

また、工業学科電気システム科では、希望者を募り、夏休みに電気関連事業所での長期就業体験を実施。生徒にとっては実践的な技術を習得する場となっている。「どんな形でも、長期就業体験を積極的に取り入れることが、生徒の社会性や地域貢献意識を育成する上でとても大切なことだと考えています」



地元の企業へ体験に行くことは、地域の産業を知る機会にもなっている。



進路指導主事
藤本 朗先生

>> School Data

工業学科、商業学科、家庭学科、情報学科 / 2003年創立
生徒数 / 566人
(男子318人・女子248人)
進路状況(2009年度実績) /
大学 9.4%・短大 7.1%・
専門 26.9%・就職 53.3%・
その他・未定 3.3%
鳥取県倉吉市小田204-5
TEL 0858-26-2851
URL <http://kss.kssh.ed.jp/>



教頭
前田三千治先生

熊本・県立矢部高校

伝統的な祭りに参加し、 地域に役立つ喜びを味わう

祭りが地域と生徒を結び、 社会の一員としての目ざめに

学校が地域と連携し、地域貢献、地域の一員であることの自覚を促すのもキャリア教育のテーマの一つ。その実践策として「祭りを通して地域と関わる」ことを取り入れているのは熊本県の矢部高校。同校は、2010年4月に蘇陽高校と再編・統合され、新設矢部高校としてスタートしているが、旧矢部高校時代からの恒例行事「八朔祭への参加」は今年も行う予定だ。

「八朔」とは旧暦8月1日のこと。豊作を祈願して、江戸時代中期から始まった伝統あるお祭り。毎年9月の第二土曜、日曜に行われている。目玉は巨大な造り物。竹やススキ、松ぼっくり、杉の皮など自然の素材を使い、町内ごとに趣向を凝らして製作、当日は高さ3〜4mのいくつもの造り物が、町を練り歩く。

「ところが、高齢化と人口減少のため、造り手が少なくなっていたことや祭りを活性化するため、04年、商工会から高校も参加しませんかと話があったんです。最初の年は若手職員が造り物を造って、祭りに

>> School Data
普通科、食農科学科、緑科学科
/2010年4月
生徒数/275人
(男子159人・女子116人)
進路状況(2009年度実績) /
大学 14.9%・短大 3.4%・
専門 35.6%・就職 40.4%・
その他 5.7%(旧矢部高校実績)
熊本県上益城郡山都町城平954
TEL 0967-72-0024
URL <http://www.higo.ed.jp/sh/yabesh/>

参加したんですよ」と経緯を話してくれたのは教頭の前田三千治先生。翌年からは、普通科1学年の「総合的な学習の時間」で「郷土と文化」の授業の一環として導入し、07年度から「自然素材を使うので自然観察や林産加工にも関連しているのではないか」ということで、林業科(現緑科学科)の1年生が、造り物を製作するようになったと言う。

「何を作るかは、GW明けから生徒と教師でアイデアを出し相談して決めます。時事ネタを盛り込むことが多く、昨年は、新型インフルエンザ予防・タイガークワイガー・タイガーマスクをしようというテーマで造り物を製作しました。夏休み中、林業科の生徒は当番実習で出校のたびに作業を進めていく。当番日が決まっております。演習林で集めてきた素材を使い、生徒と教師が一緒に作ります。経験のある上級生が手伝うこともあります」

基本的には生徒の自覚と責任で作業は進むが、遅れ気味の時は、教師が指示する。「最初は要領よく進まなくても、作業を進める中で、祭りの日に間に合わせなくちゃ」ということから自覚と責任感が芽生え、協力して頑張るようになっていきます」

メイン会場では校歌斉唱 地域と学校がつながる瞬間

出来栄は正直、町内の方々にはかなわない。それでも、町の方々が高校生の参加にとても感謝し、喜び、応援してくれる。それが生徒たちには何より嬉しい。「自分たちは地元の方々に期待されているのだと実感しているようです」。同時に地域の大人と触れ合った声かけられることで「見知らぬ人と接することへの抵抗感がなくなる」「高齢化や人口減少など、地域社会が抱える問題に気づく」「生徒も多いそう」だ。

「祭りというのは独特の高揚感があるので、地域と学校とか、高校生と大人といった垣根を超えて人と触れ合えるところがいい。他科の1年生は八朔音頭という踊りに参加し、祭りを盛り上げていますが、それだけでも十分、地域活性化に役立っていると感じています」
新設矢部高校では「地域と共に歩む高校」を目指し、地域との連携には今後さらに力を入れていく方針だ。



八朔祭の様子。毎年、時事ネタや高校のPRが「造り物」のテーマになることが多い。林業科以外の1年生は、八朔踊りで祭りに参加。



家庭科講師(右から)
小谷教子先生
矢野郁子先生
齋藤美重子先生

東京・私立麻布高校

家庭科の宿題「食事作り」が 家族をつなげ、自立の二歩に

「家族のため」「エコ」「二汁三菜」を テーマにした夏休みの課題

麻布高校の「生活総合(家庭科)」では、生活者の視点に立ち、自分たちを取り巻く様々な問題を考えるきっかけづくりとして、夏休みに、様々な体験学習を中心としたテーマ研究を行っている。

そこで、共通課題となっているのが「家族のための食事作り」だ。「家族のため」「エコの視点」「二汁三菜」といった括りはあるものの、後は自由。食材購入から献立作り、調理からゴミ処理まですべて自分で行う。参考として、二汁三菜の献立、食事を整える手順、エコクッキングの方法などを簡単に記したプリントは事前に配付する。

「食べるということは生活の基本で、人をつなぐ大事なものの。それを深く理解してほしいという思いから、1997年から1学年で実施しています。生徒のほとんどが食事はいつも作ってもらっていい。実際に自分で誰かのために作ることで、相手の立場に立って物事が考えられるようになったり、実は、自分たちはいろいろな

>>> School Data
普通科/1985年創立
生徒数/908人(男子のみ)
進路状況(2009年度実績)/
大学 43.2%・進学準備 56.8%
東京都港区元麻布2-3-29
TEL 03-3446-6541
URL <http://www.azabu-jh.ed.jp/>

人のサポートを受けて、生きているのだと学べるわけです」と小谷教子先生。共に生活総合を担当する齋藤美重子先生も「料理は栄養バランスをはじめ、段どり、味つけ、盛り付け、食べてもらう人を喜ばせる工夫など、総合力がが必要。その力が鍛えられる効果もあるし、自立の第一歩になります」

書くことで体験から何を学んだかを自ら咀嚼し、定着させる効果があるため、必ずレポートも提出させる。所定の用紙には「献立名」「食事内容の栄養分類」「工夫した点」「反省感想」に加え、「家族の感想」(自筆必須)と写真を添付する。

レポートを読むと「母の大変さが身に沁みて感謝の気持ちでいっぱいになった」「料理は想像以上に体力と知力が必要だった」といったコメントが多い。

「中1の『生活科学』では、夏休みに包丁使いの練習、トイレ掃除、洗濯など家事労働を一通りこなす宿題を出しています。「家事は女性」という社会通念にとらわれず、積極的に家事に関わることで、女性に対する思いやりや理解をもつてほしいという思いもあります」と矢野郁子先生。食事作りも家事労働も家で気軽に出来る。クラス単位でも夏の体験課題にできそうだ。

生徒は体験だけでなく、 接した人から生き方を学ぶ

生活総合では「食事作り」の共通課題の他、選択課題として「知的障害者通所授産施設でのボランティア」「病院の母子保健科での乳幼児の世話」「農業体験」など、約20近くの体験学習コースを用意。生徒はその中から1つ以上を選択し、体験学習している。

「講師や体験先は自分たちのネットワークを活用したり、区の広報誌でボランティア募集をチェックし、生徒たちにやらせてほしいとお願いしたりしています」と齋藤先生。さらに、生活総合で「夏休みの体験学習」を実施する理由として、次のように語る。「感性豊かな時期に、様々な人と出会うことで、生徒はその人の人生から生き方を学ぶ。本当の意味での体験の意義はそこにあると思っています」



ある生徒の食事作りのレポート。実施日から所要時間、献立テーマ、食事内容の栄養的分類を記入し、完成した料理の写真も添付。そして、「工夫した点(購入、準備、調理、盛り付け、片付け、洗い物、ゴミ処理)」「反省・感想(苦労した点・学んだ点など)」を自筆で記入する。最後に「家族の感想」として保護者など食べてもらった人に直接感想を書いてもらう。保護者からは「家族の会話が弾んだ」「一生懸命作ってくれた家族みんなが大喜びだった」「息子から、エコを学んだ」といったコメントが多く、家族の評判も上々の課題になっている。



社会科・進路部
吉田 理先生

宮城・私立宮城学院高校

会いたい大人に話を聞くことで 社会とのつながりを感じてもらおう

一人の大人を通して社会を知る 大切さを体験する宿題

宮城学院高校の社会科では、1学年の夏休みに「はたらく人にインタビュー」という課題を出している。

「『現代社会』はどんな社会に出て行くかを学び、どうやって社会で生きていくのかを考える授業です。そのことを口で説明しても、生徒の心には響かない。仕事は一番わかりやすい。社会とつながる形式。会いたいと思う、働く人を自力で探し出し、直接話を聞くことで、個人と社会とのつながりを考えてほしいというのが狙いです」と、同校教諭吉田理先生。社会科の宿題だが、進路部でもある吉田先生は「自分でアポをとり、直接人と向き合って話を聞いてくれるプロセスを通して、結果的に、進路を考える一助になっていると思います」と語る。

GW前に、夏休みレポートの内容を告知し、連休中に「はたらく人にインタビュー」の事前準備を促す。といっても、「自分が会いたい人は誰か?」「どんな仕事に就いている人か」「会いに行く前にすべきことは何か」

>>> School Data
普通科 / 1886年創立
生徒数 / 597人(女子のみ)
進路状況(2009年度実績) /
大学 72.3%・短大 4.1%・
専門 8.7%・就職他 14.9%
宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1
TEL 022-279-1331
URL <http://www.miyagi-gakuin.ac.jp/>

「会いに行ったら聞いてみたいことは何か」を考えさせるプリントを1枚渡すのみ。

「ただ、この課題を実施する意義は、授業を使ってしっかり伝えるようにしています」

指導はしたいけれど

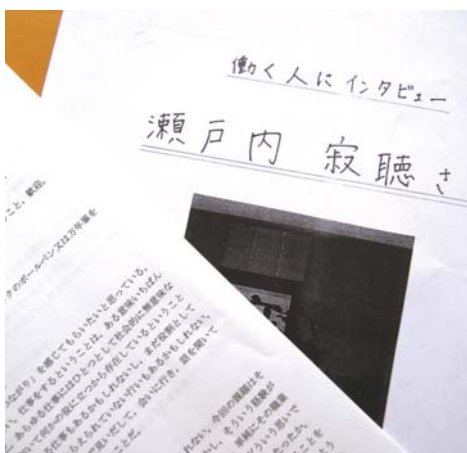
誘導はしたくない

そして夏休み直前、改めて課題内容をまとめたプリントを渡す。「課題の意図」を再度書き記した上で、「アポをとる際の準備」「心構え」「インタビュー当日」「質問内容の例」「インタビューが終わってからすべきこと」「レポートの文字数」などを簡条書きにしてわかりやすくまとめたものだ。このプリントに関する事前指導は一切ない。ただ、「これを参考にして宿題を進めてください」と言うだけだ。

「正直、細かく指示したほうがこちらもラク。でも、そこを我慢して生徒自身に動いてもらうことが重要だと思っているので教師は必要以上のことは何もしません。指導が誘導になってしまう危険があるし、そうなるとうるす『なりた職業を調べましょう』で

終わってしまうからです。この宿題ではあくまで『話す』『会う』『考える』そのことで自分が変わる『こと』を大事にしています。だから評価もきちんと相手と自分に向き合っているかどうかを基準にしています」
生徒たちは最初、憧れの職業の人を想い浮かべる。だが、意外に身近にいない。そこで、家族の紹介で父親の同僚や教員、あるいはかかりつけの医者や看護師、世話になったカウンセラーなどインタビューしやすい人を選ぶケースが多い。「それはそれでいいと思っっています。お蔭で親の苦労がわかったという生徒も多いので。ちなみに、提出レポートには「知らなかったことがわかった」「お父さんの苦労がわかった」「職業への認識が変わった」といった感想が目立つそう。

自由度が高い宿題だが、「二人の社会人と向き合うことで、生徒は社会の入口に立てる。そんな絶好の機会だと思っているので、変にこちらから枠を設けないことも大事だと思っています」



「源氏物語が好きなので、『訳者の瀨戸内寂聴さんに会いたい』と手紙を書いてアポをとり、会いに行ってインタビューした生徒もいた。「あまり目立つような感じではない、ごく普通の生徒です。瀨戸内さんに会いに行ったことがすごいのではなく、この出会いによって大きく心が動き、そのことをきちんと自分の言葉にして文章にまとめてきたところを評価しました」